

薬学部の教育理念・目標

【理念】

「ヒトの健康を目指して」の標語のもと、医薬品の創製、医療、健康・環境に関する基礎および応用の科学を教育、研究すること、ならびに「くすり」の専門家として社会的使命を遂行し得る人材の養成を以て社会に貢献する。

【教育目標】

- ・ 大学教育における基本的教養と専門の基礎となる幅広い知識を修得させ、豊かな人間性と高い倫理観を持つ人材を育成する。
- ・ 薬学に関する高度の専門的知識を修得させ、薬の専門家として社会に貢献しうる人材を育成する。

薬学部 薬学科の教育目標

- ・ 医療人に必要な豊かな人間性、高い倫理観および知性を育む。
- ・ 医療の場で薬剤師に必要とされる知識、技能および態度を形成する。
- ・ 様々な医療の場で通用する実践力を形成する。
- ・ 「くすり」の専門家として必要な課題発見能力や問題解決能力を形成する。

この教育目標を達成すべく、以下に挙げる3つのポリシーに基づいた学士課程教育を行います。

薬学部 薬学科のディプロマ・ポリシー

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・ 医療人としての豊かな人間性、生命の尊厳と患者の人権についての深い認識、人の命と健康を守る使命感・責任感および倫理観を有する。（薬剤師としての心構え、患者・生活者本位の視点）
- ・ 生体および環境への医薬品や化学物質などの作用・影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。（基礎的な科学力）
- ・ 薬剤師として基盤となる知識を修得した上で、安全で有効な薬物療法を主体的に計画、実施、評価、管理する能力を有する。（薬物療法における実践的能力）
- ・ 情報を収集し提供する能力およびコミュニケーション能力を有し、医療機関や地域における医療チームに積極的に参画して薬剤師に求められる行動を適切にとることができる。（地域の保健・医療における実践的能力、チーム医療への参画、コミュニケーション能力）

- ・薬学・医療の進歩に寄与するための研究を遂行する意欲，課題発見能力，問題解決能力を有する。（研究能力）
- ・薬学・医療の進歩に対応するために，生涯にわたり自己研鑽を続けるとともに，次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。（自己研鑽，教育能力）
- ・グローバルな視点を持ち，国際社会に医療人として貢献できる能力を有する。（グローバル）

と認められた者に対し，学士（薬学）の学位を授与します。

薬学部 薬学科のカリキュラム・ポリシー

- ・文部科学省薬学教育コア・カリキュラムに基づきカリキュラムを編成しています。
- ・入門科目では，薬学全般の基本的知識と薬局病院見学などで薬剤師の業務について学びます。

評価は主にレポートによって行います。

- ・専門基礎科目では，物理化学，分析化学，有機化学，生化学など生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識と共に，薬用植物学，衛生薬学，薬剤学，薬理学，生理解剖学など薬学分野で特に重要となる科目の基礎を学びます。さらに，専門基礎実習では各専門分野での研究に必要な考え方，方法，技能を習得するとともに，共用試験や薬局病院実習に向けて，実務に関連する知識や技能の習得のための実習を行います。

評価は主に試験とレポートによって行います。

- ・専門科目では，生命科学や医薬品に関してより深く学ぶとともに，薬物治療学，生薬学，臨床検査学，医薬品評価学など薬学独自の高度な専門的知識を学びます。

また，医療倫理，実践薬学，医療コミュニケーション，在宅医療実践学などの科目で，薬剤師として身につけるべき基本的知識と能力，技能，心構えを学び，病院や薬局での実務実習では，それまでに身につけてきた知識や技能を実践することで，薬剤師として求められる基本的な資質を身につけます。

評価は主に試験，レポート，ポートフォリオなど多面的に行います。

- ・発展的科目の科学英語，医療実験計画法，医療薬学特別実習では，英語論文を読解し，実験計画を立て，研究を行い，結果を卒業論文としてまとめると同時に公開発表会で発表することで，論理的思考力，課題発見能力，および問題解決に向けた計画立案能力を養います。また，在宅医療実践学と医療薬学総合演習では薬剤師としての知識の総括を行い，高次臨床実務実習では，大学病院の病棟や外来での業務や，離島における医療連携について現場で学びます。これらを総合して生涯にわたり自己研鑽を続けるとともに，次世代を担う人材を育成する意欲と態度を育成します。

評価はセミナー発表，レポート，卒業論文，プレゼンテーションなどにより多面的に行います。

科目に関する別表（薬学部 薬学科）

科目等 資質等		入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として養われる資質	生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識	薬学概論Ⅰ・Ⅱ 教養有機化学 教養生物学 教養物理化学			
	研究に必要な考え方, 方法, 技能		薬学基礎実習		
	生命科学や医薬品に関するより高度な知識	有機化学 A 薬品分析化学Ⅰ 生化学Ⅰ 有機電子論 生物物理化学 生物有機化学	有機化学 B・C・D 薬品物理化学 薬品分析化学Ⅱ 生化学Ⅱ・Ⅲ	微生物学 放射化学 細胞生物学 分子生物学 天然物化学	
	薬学分野で特に重要となる高度な専門的知識	分子構造解析学 健康科学概論	薬用植物学 臨床漢方学 生薬学 衛生薬学Ⅰ 薬学統計学 生理・解剖学Ⅰ 薬理学Ⅰ 臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ 薬剤学Ⅰ	生理・解剖学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 衛生薬学Ⅱ 病原微生物学 化学療法学 医療薬物代謝学 医薬品情報学 免疫学 医薬品評価学 薬剤学Ⅱ・Ⅲ 薬物治療学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 臨床検査学Ⅱ	
	薬剤師として身に着けるべき基本的知識と能力, 技能, 心構え	薬学概論Ⅱ	医療倫理Ⅰ 実践薬学Ⅰ	薬事関連法規 医療倫理Ⅱ 実践薬学Ⅱ 医療コミュニケーション	在宅医療実践学 医療薬学総合演習
	病院や薬局で必要な知識と技能の実践	在宅医療・福祉 早期体験学習 在宅ケア概論Ⅰ・Ⅱ	実務実習（事前実習）	実務実習（病院・薬局実習）	
	自己研鑽・教育能力, 研究能力				科学英語 医療実験計画法 医療薬学特別実習
	病棟や外来での業務や, 離島における医療連携				高次臨床実務実習Ⅰ・Ⅱ

薬学部 薬学科のアドミッション・ポリシー

薬学科は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・ 幅広い知識と十分な基礎学力がある。
- ・ 専門的な学修に必要となる数学と理科の学力が優れている。
- ・ 英語論文の読解・解説をはじめ、グローバルな視点を持って社会に貢献するために必要な英語の学力が優れている。
- ・ 論理的な思考能力や問題解決能力を持つ。
- ・ 協調性やコミュニケーション能力を持つ。
- ・ 薬学，生命科学に高い関心があり，研究や持続的な学修への意欲を持つ。

選抜方法に関する別表（薬学部 薬学科）

入試区分 求める資質等	一般入試 前期日程	一般入試 後期日程	外国人留学生 入試
基礎学力	センター試験	センター試験	日本留学試験
数学，理科，英語の学力	センター試験 個別学力試験	センター試験 個別学力試験	日本留学試験 個別学力試験
思考能力，問題解決能力	個別学力試験	個別学力試験	個別学力試験 面接
協調性，コミュニケーション 能力，関心，意欲	調査書*	調査書*	面接

*平成 32 年度入試に向けて検討中。

薬学部 薬科学科の教育目標

- ・ 薬学が人間の生命に拘わる学問であることを踏まえ、薬学分野の研究者・技術者に必要とされる豊かな人間性，高い倫理観，知性を育む。
- ・ 薬学分野の研究者・技術者に必要な薬学領域全般にわたる基礎的知識と技能を形成する。
- ・ 研究の現場で実践的な教育を長期的かつ継続的に行い，薬学分野の研究者・技術者としての基盤となる課題発見能力や問題解決能力を形成する。

この教育目標を達成すべく，以下に挙げる 3 つのポリシーに基づいた学士課程教育を行います。

薬学部 薬科学科のディプロマ・ポリシー

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し，

- ・ 薬学・生命科学分野の研究者・技術者に必要とされる豊かな人間性，高い倫理観，知性を有する。（研究者・技術者としての心構え）
- ・ 化学物質の物理的および化学的性質・生体や環境との関わり，自然が生み出す薬物，および生体の成り立ちと機能について高度な知識を有する。（薬学の基礎知識）
- ・ 医薬品の分析法・合成法・作用機序・体内動態についての高度な知識を有し，医薬品の探索から臨床試験に至る創薬過程を包括的に理解している。（医薬品の基礎知識）
- ・ 薬学・生命科学分野の研究に必要な意欲，基本的知識と技能，および問題解決能力を有する。（研究能力）
- ・ 課題発見能力とともに，情報を主体的に収集・活用・発信することができる。（情報収集・発信能力）
- ・ グローバルな視点を持ち，研究者・技術者として国際社会ならびに地域社会に貢献する能力を有する。（地域・グローバル）
- ・ 薬学・生命科学の分野で生涯にわたり自己研鑽を続けるとともに，次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。（自己研鑽・教育能力，研究能力）

と認められた者に対し，学士（薬科学）の学位を授与します。

薬学部 薬科学科のカリキュラム・ポリシー

- ・ 入門科目では，薬学全般の基本的知識と製薬企業や研究所見学などで研究者・技術者の業務について学びます。

評価は主にレポートによって行います。

- ・ 専門基礎科目では、物理化学、分析化学、有機化学、生化学など生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識とともに、薬用植物学、衛生薬学、薬剤学、薬理学など薬学分野で特に重要となる科目の基礎を学びます。さらに、専門基礎実習では各専門分野での研究に必要な考え方、方法、技能を修得します。

評価は主に試験とレポートによって行います。

- ・ 専門科目では、生命科学の基盤となる知識を深めるとともに、生物有機化学、分子生物学、天然物化学など、医薬品開発に必要な高度な専門的知識を学びます。また、薬物治療、薬物代謝、医療倫理、医薬品情報学など薬学独自の幅広い知識を修得します。

評価は主に試験で行います。

- ・ 発展的科目の創薬科学では、それまでに身につけてきた知識を基盤として医薬品開発について総合的に学びます。また、科学英語、実験計画法、薬科学特別実習では、英語論文読解、実験計画立案、研究の実践、卒業論文作成、発表を通して論理的思考力、課題発見能力、および問題解決に向けた計画立案能力を養うことで、総合的に自己研鑽力と研究能力を育成します。

評価は試験、セミナー発表、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどにより多面的に行います。

科目に関する別表（薬学部 薬科学科）

科目等 資質等		入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として養われる資質	生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識	薬学概論Ⅰ・Ⅱ 教養有機化学 教養生物学 教養物理化学			
	研究に必要な考え方、方法、技能		薬学基礎実習		
	生命科学や医薬品に関する高度な知識	有機化学 A 薬品分析化学Ⅰ 生化学Ⅰ 有機電子論 生物物理化学 生物有機化学	有機化学 B・C・D 薬品物理化学 薬品分析化学Ⅱ 生化学Ⅱ・Ⅲ	微生物学 放射化学 細胞生物学 分子生物学 天然物化学	
	薬学分野で特に重要な高度な専門的知識	分子構造解析学 健康科学概論	薬用植物学 臨床漢方学 生薬学 薬剤学Ⅰ 衛生薬学Ⅰ 薬学統計学 生理・解剖学Ⅰ 薬理学Ⅰ 臨床医学概論Ⅰ 医療倫理Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	生理・解剖学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅱ・Ⅲ 衛生薬学Ⅱ 病原微生物学 細胞生物学 薬剤学Ⅱ・Ⅲ 薬物治療学Ⅱ 化学療法学 医療倫理Ⅱ 医薬品情報学 免疫学 医療薬物代謝学 医薬品評価学 医療コミュニケーション 薬事関連法規	創薬科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	自己研鑽・教育能力 研究能力	薬学概論Ⅱ			科学英語 実験計画法 薬科学特別実習

薬学部 薬科学科のアドミッション・ポリシー

薬科学科は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・ 幅広い知識と十分な基礎学力がある。
- ・ 専門的な学修に必要となる数学と理科の学力が優れている。
- ・ 英語論文の読解・解説をはじめ、グローバルな視点を持って社会に貢献するために必要な英語の学力が優れている。
- ・ 論理的な思考能力や問題解決能力を持つ。
- ・ 積極的な自己表現力や行動力を持つ。
- ・ 薬学，生命科学に高い関心があり，研究や持続的な学修への意欲を持つ。

選抜方法に関する別表（薬学部 薬科学科）

入試区分 求める資質等	一般入試 前期日程	一般入試 後期日程	A0 入試 II	外国人留学生 入試
基礎学力	センター試験	センター試験	センター試験	日本留学試験
数学，理科，英語の学力	センター試験 個別学力試験	センター試験 個別学力試験	センター試験 総合問題 面接	日本留学試験 個別学力試験
思考能力，問題解決能力	個別学力試験	個別学力試験	総合問題 面接	個別学力試験 面接
自己表現力，行動力， 関心，意欲	調査書*	調査書*	自己推薦書 調査書 面接	面接

*平成 32 年度入試に向けて検討中。